

江戸に於ては米價騰貴して錢百文に付米五合より貳合八勺となり餓死するもの多きを以て、救恤場を設立せり、古老の説に東海道戸塚のみにても、五百餘人の乞食ありしと、大阪にても官私の米を貧民賤賣せり、翌天保八年二月大鹽の亂あり(貨幣史參考)

(一一九)安政五年六月虎列刺病始めて長崎に發し、其の勢の猛烈なる、僅に一月を経て、速に江戸に傳播せり、八月上旬より中旬に至るの際には、毎日の死亡千を以て算へ、京都大坂は八月に發し、蝦夷及び函館は七月より始まり死亡頗る多し、然れども江戸に比すれば其の害小なり、氣候秋冷に赴き、一時は屏息せしと雖も、翌年に至り病芽再發して各所に熾盛の勢をなせり、萬延元年には稍衰頹の狀を現し、其の翌年即ち文久元年に至りて全く消滅に歸せり(虎刺病流行記)今安政五年七月より九月廿三日に至る五十五日間に於て、江戸市中の諸寺院より、各々其の取扱ひたる死亡者の届出數在の如し

淺草の分

本ねん寺二百六十七人、教善寺三百十二人、傳かく寺百六十四人、誠心院八十人、日りん寺三百九十三人、壽徳院六十八人、等覺院二百四十四人、法善院百十二人、安樂院三百七十四人、顯松院九十九人、弘法寺二百五十人、妙徳院百三十人、遍立寺二百九十三人、松壽院二百〇一人、淨念寺二百六十一人、梅園院七十九人、正福寺百九十三人、壽命院九十三人、燈明院二百三十一人、覺善院百七十人、廣大寺百六十三人、金剛院七十九人、西光寺三百十二人、泉慶院百四十人、東岳寺二百八十人、修善院七十人、西照寺二百一人、日音院四十九人、新光寺三百五十人、金藏院百二十一人、榮藏寺二百四十人、實相院二百七十人、蓮光寺三百九十人、心福寺八十九人、正行寺百九十一人、勝藏院百一人、法泉寺四十一人、源空寺三百八十人、不動院百十一人、觀智院二百五十人、正安寺八十九人、泉藏寺九十人、大乘寺二百八十三人、善龍院六十一人、滿泉寺百七十人、延命院九十九人、法福寺百二十一人、德應院七十八人、等覺院二百八十人、本龍院二百二十人、大圓寺三百四十人、吉祥寺二百六十人、長樂寺百三十人、遍照院百三人、正覺寺三百十三人、成就院四十九人、金龍寺五十一人、西王寺二百十三人、壽松院二百一人、昌寶寺五十七人、西藏院百九十一人、道了寺百八人、桃林寺百

十一人、大聖寺七十一人、東禪寺七十九人、等聖寺二十五人、東漸寺二百八人、昌光寺七十九人、常福寺八十八人、寶徳寺二百六十人、東光寺二百六十人、福壽院八十九人、龍法寺二百七十一人、泉ねん寺百二十一人、實相寺二百五十人、惣泉寺三百三人、吉祥院二百三人、長昌寺三百六十人、誓教寺百十三人、妙音寺二百一人、妙福寺百三十人、本立寺百九十人、善慶寺百五十人、慶用寺六十一人、觀藏院百五人、長高寺七十三人、光感寺十三人、昌福寺六十九人、合計一萬五千四百八十八人○以上の人員を覆算すれば一萬五千三百七十八人となり二百三十人の差數を見る中に傳寫の誤字あるか

下谷の分

日輪寺百二十三人、天王寺二百三十八人、榮久寺百二十人、妙法寺百三十人、立慶院九十八人、本郷寺九十八人、正等寺七十一人、新行寺百七十人、宗門寺二百二十人、金念寺一百十六人、幡隨院二百六十人、妙傳寺二百三人、松源寺百六十一人、天支寺百十人、正覺寺九十五人、宗林寺二百七十人、本立寺百七十一人、大圓寺二百三十人、清光寺九十人、長久寺百四十一人、大松寺六十一人、本立寺九十六人、新安寺百二十九人、鐵王寺六十人、東玉寺二百七十人、本壽寺百五十一人、本藏寺百六十人、延命院二百四十人、守光寺九十一人、宗福寺百四十人、正福寺參十人、自燈院七十九人、本法寺七十人、明玉院五十八人、正照寺二百十三人、一榮寺二百一人、善照寺百十五人、妙支寺百七十二人、了源寺七十人、西方寺百三十人、觀音院二百三人、延壽寺二百三人、龍福寺四十九人、玉林寺百二十人、欣淨寺百七十人、大觀音寺二百八人、革藏寺七十八人、成應寺二十人、唯兼寺二百十三人、新播隨院二百五人、萬福寺六十五人、宗源寺百六十一人、宗安寺九十九人、連妙寺九十四人、永昌院二百九十人、龍法寺七十三人、淨圓寺二百三十一人、大乘院九十四人、覺性寺二百四十七人、龍光寺百三十一人、東湖寺三百七十二人、西福寺二百四十人、正慶寺三百四十七人、善龍寺百七十一人、宗延寺百五十一人、誓願寺九十六人、法恩寺九十八人、覺林寺百三十人、善養寺百十六人、幸龍寺二百十一人、宗慶寺百十一人、東光寺六十八人、海禪寺百二十人、大久寺百十五人、燈明寺六十一人、徳大寺二百四人、廣徳寺二百二十人、駒込にて吉祥寺二百八十人、天榮寺百十一人、運大寺九十九人、世尊寺七十人、正林寺六十八人、大圓寺百六十人、十方寺七十九人、高林寺百四十一人、法正寺百二十人、等覺寺七十一人、合計壹萬貳千八百四十九人、○以上の人員を覆算すれば一萬二千八百三十六となり十三の不足を見る是又た中に誤寫ある歟

小石川の分

飢饉疫癘の部

傳通院三百二十一人、祥雲寺百六人、蓮花寺百二十人、了源寺七十九人、宗慶寺六十三人、萬德寺百四十九人、圓樂寺百十二人、蓮久寺二百四十人、同所白山大圓寺二百三十人、淨心寺二百七人、大乘寺百七十人、正銘寺百十人、合計一千九百七人
牛込の分

萬昌院二百十四人、光照寺百九人、天徳院百四人、寶泉寺九十八人、宗源寺七十九人、長安寺百五十人、三藏院百十五人、妙福寺七十八人、大泉寺百九十一人、正光寺二百三十人、大法寺二百一人、妙法寺百六十人、圓福寺百八人、正げん寺二百三人、合計二千四十一人

水道町の分

本方寺二百十七人、金剛寺百三十一人、正覺寺九十一人、龍興寺百七人、正妙寺二百八人、合計七百五十四人

青山の分

誠徳寺百十人、青梅寺二百四人、風閑寺百七十四人、長國寺二百十五人、長久寺百四十三人、梅窓院二百十六人、善光寺百四十一人、教覺院二百三人、大安寺百七十人、學雲寺百二十人、東福寺二百一人、合計壹千八百九十七人
本郷丸山の分

本妙寺三百四十一人、長泉寺二百人、圓満寺百十一人、眞光寺百十三人、龍泉寺百二十五人、長養院百四十一人、合計壹千〇三十一人

市ヶ谷の分

自證院二百三人、同枕寺百十人、長延寺百六十人、承王寺二百七人、專修寺七十九人、西光寺百七十八人、善正寺六十一人、寶光寺九十三人、安全寺七十八人、遠正寺二百十人、妙泉寺五十六人、眞正寺百九十人、桃園寺百六十人、本林寺二百四十一人、感通寺百二十一人、合計二千百十七人〇以上の人員を覆算すれば二千百四十七となり三十人と差數を見る是又中に誤寫ある歟
原町の分

幸國寺二百六十一人、妙興寺百十八人、專光寺百七十人、長昌寺二百八十人、鑑王寺百十一人、常泉寺九十七人、合計壹千〇三十七人

雜司ヶ谷の分

法明寺百六十二人、金剛院五十三人、本立寺七十九人、本天寺百七十人、妙けん寺百二十人、合計五百八十四人

赤坂の分

種徳寺三百十三人、正覺寺二百九十人、龍長寺三十八人、妙光寺二百三十人、淨土寺三百十人、圓道寺二百八人、專光寺二百一人、湖雲寺百二人、證泉寺六百四人、梅ろう院三百四人、泉光寺百九十人、合計二千八百九十人
麻布の分

正信寺三百十人、春桃寺二百一人、臺雲寺百六十人、西光寺二百十一人、天興寺百五十人、大興寺九十八人、祥雲寺七十五人、東福寺百十四人、陽泉寺二百三人、光照寺百三十人、專光寺二百六人、源廣寺百六十一人、長泉寺九十一人、妙善寺二百四十人、正覺寺百七十一人、妙祝寺二百七十人、善福寺二百八十三人、觀妙寺百九十人、不動院二百四十人、龍源寺七十六人、龍穗寺百四十三人、長安寺二百四十一人、清徳寺百三十一人、天林寺二百四十一人、長昌寺百九十人、天元寺二百四十人、合計六千六百六十七人〇以上の人員を覆算すれば六千六百六十六人となり一人の差數あり是亦た中に誤寫あるか
目白の分

蓮花寺二百三十四人、蓮久寺二百四十一人、寶泉寺二百七十一人、長谷寺百九十九人、合計九百四十五人
四つ谷の分

太宗寺二百四十一人、天龍寺二百七十人、西方寺二百四十人、眞承寺百四十七人、西念寺百九十人、專修寺二百四十人、感應寺二百十六人、同新町東福寺二百六十一人、仙壽寺二百四十人、寶泉寺百六十一人、合計二千百五十五人〇以上の人員を覆算すれば二千二百〇六人となり五十一人の差數を見る亦た中に誤寫あるか
澁谷の分

東福寺二百九十九人、長谷寺二百四十人、大圓寺二百七十人、正覺寺二百九十人、合計一千〇九十九人
飯倉の分

一藥寺二百四十九人、善長寺百九十人、順了寺二百四十人、法普寺二百九十人、合計九百六十九人

飢饉疫病の部

三田の分

功運寺二百九十人、常盛寺二百六十人、泉福寺二百四十人、龍源寺百二十三人、太中寺百四十四人、神宮寺二百四十人、實相寺二百三十人、當光寺二百四十人、寶徳寺百十三人、西海寺百九十八、西藏院二百七十人、大圓寺二百九十人、宗源寺百六十人、教善寺百一人、圓妙寺百二十人、隨應寺二百三人、寶徳寺百七十人、合計三千三百四十八人

金杉の分

西應寺三百八十三人、安樂寺二百六十四人、經覺寺三百九十三人、玄光寺百九十九人、多門院二百八十八人、正傳院三百七十三人、合計一千九百人

高輪の分

願生寺百六十一人、如來寺百二十一、泉岳寺二百十二人、當光寺百十三人、長應寺七十六人、合計六百八十三人

二本榎の分

應岳院百十三人、高野寺三百二人、黃梅寺二百六人、相福寺百二人、智將寺九十二人、學眞寺四十二人、朗禪寺七十六人、保安寺百一人、上行寺二十九人、承教寺四十九人、合計一千百十二人

西の久保の分

天徳寺三百九十人、普門院二百六十人、大養寺七十九人、光明寺百八十人、光圓寺百二十人、泉老寺七十八人、合計一千百十二人〇以上の人員を覆算すれば千百〇七となり五人の誤差あるを見る

切通しの分

青松寺百二十一、金地院二百人、圓宗寺百六十人、眞行寺二百一人、本清寺百三十人、眞福寺九十八人、青龍寺八十一人、合計九百九十一人

目黒の分

長仙寺百四十人、祐天寺四百四十人、大圓寺二百七人、妙應寺百三人、光泉寺二百六人、吉祥寺百六人、玄正寺二百四十人、光林寺五十四人、合計一千四百六十人

白金の分

瑞聖寺二百四十人、覺林寺百四十人、妙玄寺九十九人、永教寺百四十人、報恩院百六十人、國昌寺二百二十人、本立寺九十人、松源寺四十八人、西方寺八十九人、妙圓寺百四十一人、合計一千三百七十四人〇以上の人員を覆算すれば千三百六十七となり六人の誤差を見る

品川の分

了眞寺二百四十人、寶塔寺二百四十一人、妙國寺百四十一人、海藏寺二百三十人、海安寺六十三人、品川寺二百三十人、常行寺二百六十人、本誓寺七十六人、長徳寺百四十三人、正徳寺百六十人、蓮長寺二百六十人、妙蓮寺百六十人、願徳寺二百四十人、東海寺二百四十人、清徳寺百三十一人、合計二千六百七十九人〇以上の人員を覆算すれば二千七百七十九人となり百人の差數有るを見る中に誤寫あるべし

向島の分

常泉寺三百六十七人、弘福寺二百九十人、長命寺二百四十人、木母寺二百二十人、延命寺百一人、最正寺九十人、萬がん寺六十人、蓮花寺百四人、合計一千四百八十二人〇以上の人員を覆算すれば一千四百七十二となり十人の差不足を見る亦た是誤寫あらん

押上の分

最教寺三百三人、大雲寺二百一人、金性院二百四十人、法性院三百四十人、宗正寺七十九人、志生院八十九人、泉龍寺百六十人、正光寺二百六十人、妙法寺百四十六人、龍願寺二百九十四人、合計二千〇七十六人

深川の分

靈岸寺千五百人、淨心寺八百九人、本誓寺九百七十人、雲光寺二千八人、保禪寺八百四十人、正覺寺四百一人、海福寺二百三十人、妙壽寺二百四十一人、圓滿寺二百九十人、正光寺二百四十人、惠蓮寺百七十人、宗林寺百三十人、眞教寺二百七十人、法正寺百二十人、養眞寺二百四十人、合計八千四百五十九人

本所の分

惣玄寺百四十人、靈光寺千六百人、廣徳寺三百六人、華言寺三百四十人、法恩寺二百六人、靈山寺千六十人、本佛寺三百三十人、專

修寺二百四十人、延命寺二百四十人、彌勒寺百六十人、龍照寺百九十人、龍禪寺二百八人、眞敬寺百四十一人、善けい寺二百八人、法性寺百四十人、妙見寺二百四十人、永泉寺百三十人、光照寺二百三十人、合計六千百〇九人
 西本願寺(寺中三十六とも)壹萬三千五百人
 東本願寺(添地三十五とも)壹萬一千八百二十人
 増上寺(下屋敷)壹千九百八十七人
 眞法寺(麴町)六百七十二人
 惣不殘高貳拾六萬八千〇五十七人
 回向院(兩國)無人別者七千五百人、西念寺(叢下)四千一百二十五人
 燒場千住六萬三千〇七十八人、目黒壹萬二千〇三十六人、砂邑九百七十五人、靈岸寺二萬九千〇五十八人、淨心寺壹萬〇七十二人、白金臺一萬壹千〇六十八人、桐谷二萬六千五百十二人、狼谷九百七十人、落合六千三百五十人
 總計十六萬〇一百十九人

此の他寺院數多ありと雖も、十人以下のものは之を除けり(以上諸宗寺院死人書上寫)

○總不殘高二十六萬八千〇五十七人とあるは蓋概數を掲げたるものなるが、此に其の土地毎に合計せしものと、兩本願寺、増上寺、眞法寺及回向院無人別者並西念寺の數を加れば十二萬六千八百四十五人となり、所載の總不殘高即ち二十六萬八千〇五十七人と合はず、故に覆算して得し所の十二萬六千八百四十五人に燒場の數を加へ見れば二十八萬六千九百六十四人を得、更に之に彼の十人以下は之を除くものを見込めば殆ど三十萬の數に垂んとす是れ或は其五十餘日間に於ける死亡概數なるべきか

○某氏の所載に係る筆記には、八月朔日より同二十日に至るまで、江戸市中町人の死亡調を町奉行へ書上たる數、男女合せて四萬〇六百九十一人、又諸寺院より屋敷町とも死亡送葬の書き上げ高は四萬二千六百九十九人とあり、○嘉永明治年間録には七月二十日頃より九月十日頃に至るまで凡五十日間に於て、武家及寺院町方等人別書上に、時漏せし者を差し加之死亡凡三萬人、又社奉行より諸寺院の届書に係る九月中の調書を出せしものには死亡人員總計二萬八千四百二十一一人、内土葬九千九百二十三人、未だ届け出でざる分は追て取調ぶべしとあり、是皆一局一部の私記にして嘉永明治年間録の記載の如きは杜撰取るに足らざるなり

(二三〇)文久二年、是歲夏より、麻疹大に各地に流行して、漸く消滅に至らんとするに際し、虎列刺病發し、殊に麻疹の流行したる地に甚だしく、加之麻疹を患ひたる人に多し云々(虎列刺病流行記事)然れども五ヶ年前よりは輕症なりしと云ふ(嘉永明治年間録)

昭和七年八月五日印刷
昭和七年八月八日發行

日本震災凶餘放

定價參圓八拾錢

(兩角製木)



著者 權藤成卿

東京市麹町區內幸町一ノ三大阪ビル四階

發行者 廣田義夫

東京市牛込區市谷加賀町一ノ二

印刷者 新井長治郎

秀英舍印刷

發行所

東京市麹町區內幸町一ノ三。大阪ビル四階

文藝春秋社

振替口座東京七〇〇〇八番

219748

權藤成卿著

農村自救論

四六判二四〇頁
定價一圓二十錢
送料十二錢

時局匡救の指導書として、日本救済の一大警世言として、今日全國のあらゆる讀書階級を震撼しつゝある問題の書はこれだ！抑も著者權藤先生とは如何なる人か？先生は現代日本の有つ唯一の經世家で、又、大江廣元以來の不世出の大制度學者だ。六十年世に隠れて農本自治主義を講じてゐたが、擾々たる時局に慷慨され敢然立つて直言されたのが本書である。先生を頼りに有名にしたのは今春一世を驚倒させた〇〇事件の背後の人と噂されてからであるが、併し先生は既に早くから全國幾百の農民組合から慈父の如く渴仰され、その感化力は絶大である。のみならず、その高邁なる識見の故に、國步多難の昨今、朝野の名士にして先生の門を敲かぬはない。本書は實に先生の化身、就きて坐ながらその聲喉に接せよ！！

文藝春秋社刊行





